



9月15日はなぜ敬老の日なの

お年寄りをうやまい、長生きを祝う日

「敬老の日」は、かつて「としよりの日」、「老人の日」とよばれていました。

1951年に、当時の中央福祉協議会が、9月15日を「としよりの日」と決めたのが、「敬老の日」の始まりです。その後、1964年に、老人福祉法が制定され、「としよりの日」が「老人の日」に改められました。

1966年には、国民の祝日の一つに加えられ、よび名も「敬老の日」となったのです。

9月15日にしたのは、聖徳太子(574～622年)が、四天王寺に悲田院を設立したと伝えられる日にちなんでいるのです。悲田院とは、親をなくして孤児になってしまった子どもや、貧しくて身寄りのない人を助けるために設けられた施設です。

「敬老の日」は、お年寄りをうやまい、ねぎらうことを目的に定められたのです。その日に、あなたもおじいちゃんやおばあちゃんをたずねて、お話ししてあげるなどするといいですね。

お年寄りをなくさめるための、いろいろな行事

敬老の日を中心として、お年寄りをなくさめるための、いろいろな行事が行われます。市民センターなどの施設を使って、歌や踊りを楽しむ会や、中には、観光バスなどに乗り、旅行に出かけたりするグループもあります。

市町村によっては、高齢者に、お祝い金を支給しているところもあります。

(監修・田代 脩)

